

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	大 矢 幸 久
2. 審査委員	主 査：（兵庫教育大学教授） 吉 水 裕 也 副主査：（上越教育大学教授） 志 村 喬 委 員：（兵庫教育大学教授） 森 秀 樹 委 員：（兵庫教育大学教授） 山 内 敏 男 委 員：（岐阜大学准教授） 田 中 伸
3. 論文題目	地域像を再構成する小学校社会科地誌学習に関する研究
4. 審査結果の要旨	教科教育実践学専攻社会系教育連合講座 大矢 幸久 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和7年1月26日（日） 14時00分～15時00分 場所：オンライン（zoom） 1. 学位論文の構成と概要 本研究は、小学校社会科地誌学習において、子どもが自他の地域像を吟味・批判し、新しい地域像を創造できる教育内容を開発し、その有効性を実証的に検証することを目的としたものである。 序 章 研究の目的と意義 第Ⅰ部 地域像を再構成する小学校社会科地誌学習の構成原理 第1章 小学校社会科地誌学習の課題と改革への視座 第2章 「構築物-再構成型地誌学習」の理論的枠組み 第3章 「構築物-再構成型地誌学習」に基づく小学校社会科地誌学習の授業構成論 第4章 小学校社会科地誌学習の内容編成論 第5章 「構築物-再構成型地誌学習」に基づく小学校社会科地誌学習のカリキュラム編成論 第Ⅱ部 「構築物-再構成型地誌学習」に基づく小学校社会科地誌学習の授業開発と実践 第6章 「表象」再構成型の授業モデルと分析 第7章 「表象要素」再構成型の授業モデルと分析 第8章 「表象価値判断」再構成型の授業モデルと分析 終 章 研究の成果と課題 論文の概要は以下のとおりである。 序章では、近年の学習指導要領や国際的な教育政策の動向を踏まえ、小学校社会科地誌学習において、子どもを知識の運営者として捉え、子ども自らが他者と協調しながら既存の地域像を問い直し、状況に応じて新たな地域像を再構成することのできる資質・能力の育成が求められることを指摘した。 第1章では、小学校社会科地誌学習に関する先行研究の課題として、第1に子どもに一面的な地域像を

注入する学習に留まること、第2に発達段階に応じて獲得・成長させるべき地理的概念やそれに基づく地理的な見方・考え方が不明確であることを指摘した。また、現代社会における地誌学習の課題を検討し、子どもがさまざまなメディアによって生産・流通する地域像を吟味・批判することのできる地誌学習の重要性を指摘した。こうした問題意識を踏まえ、本研究では、新たな小学校社会科地誌学習の方向性として、地域を社会的に生産された構築物として捉え、それを吟味・批判し、地域像の再構成や新しい地域像の創造を目指す地誌学習である「構築物-再構成型地誌学習」を提起した。

第2章では、「構築物-再構成型地誌学習」の理論的枠組みを考察するために、近年のイングランド地理教育研究や国際的地理教育研究動向であるジオケイパビリティ・プロジェクトの成果に着目した。分析の結果、社会構成主義的アプローチだけでなく、知識の実在性を重視する社会実在主義的アプローチに基づく地誌学習の構想が求められることを示した。

第3章では、授業構成の理論仮説として、「構築物-再構成型地誌学習」の授業過程モデルを提起した。これは学術研究の成果に基づく学問的知識と子どもの生活経験に基づく日常的知識を問いによって結び付けて、場所、空間、スケールといった地理的概念の獲得・成長を図りながら地域像を再構成する地誌学習である。具体的には、「地域像相対化段階」、「地域像構築分析段階」、「地域像吟味批判段階」、「地域像再構成段階」から構成される。

第4章では、小学校社会科地誌学習のカリキュラム編成原理の検討に向けて、イングランド初等地理ナショナルカリキュラムのKey Stage 2を対象にしたテキストブックにおける地誌的単元を分析した。ここでは初等段階の地誌学習において扱われる地理的概念に着目し、その学習段階（水準や順次性）を明らかにした。

第5章では、地域像の表象過程における段階性から、「構築物-再構成型地誌学習」の授業類型として、①「表象」再構成型、②「表象要素」再構成型、③「表象価値判断」再構成型の3つを設定した。さらに、イングランド初等地理教育の知見、小学校社会科における子どもの社会認識の発達、現行の学習指導要領の枠組みを踏まえ、「構築物-再構成型地誌学習」を体系化した。

第6章から第8章では、「構築物-再構成型地誌学習」の理論仮説に基づき開発した授業を授業類型ごとに実践し、その有効性について検証した。授業開発に際しては、各授業類型の特質と学習指導要領および発達段階に基づき、実践上の課題や再構成する対象、授業設計の視点を明らかにした（各章第1節）。また、授業において獲得させたい「中核的地理的概念」や授業の中での活用をめざす「副次的地理的概念」を検討した上で、それらを組み込んだ具体的な単元開発を行った（各章第2節）。授業分析に際しては、子どもの制作物や振り返りの記述を主な対象として質的・量的分析を行い、子どもの地域像（各章第3節第2項）および地理的概念の変容（各章第3節第3項）を明らかにした。開発・実践事例は以下の通りである。

第6章の「表象」再構成型では、生活科や日常生活により形成された身近な地域に対する地域像を対象に、場所概念（特に自然条件と社会条件による場所的差異）の獲得を図りながら「表象された地域像」の再構成をめざす第3学年単元「学校があるまちは、どんなまち？」を示した。

第7章の「表象要素」再構成型では、メディアなどによりステレオタイプ化した地域像を対象に、場所概念（特に場所の社会的構築性）の獲得を図りながら、「表象された地域像」と「表象要素」の再構成をめざす第3学年単元「新宿区の様子を調べよう」を示した。

第8章の「表象価値判断」再構成型では、政策実現に向けて行政より表象された地域像を対象に、スケール概念（特に地理的スケール）の獲得を図りながら「表象された地域像」と「表象要素」および「表象価値判断」の再構成をめざす第4学年単元「東京都の様子ー東京都のゆるキャラをつくろう」を示した。

終章では、これまでの理論的検討および授業開発と効果検証を踏まえて、「構築物-再構成型地誌学習」の有効性とそれに基づく小学校社会科地誌学習のカリキュラム編成案を提示した。

2. 審査経過

本審査委員会の審査委員は、提出された学位論文を精読したのち、令和7年1月26日にZoomによるオンラインでの公聴会に引き続き、同じくオンラインで学位論文の審査と最終試験を行った。

（1）論文の独創性

本研究は、小学校社会科地誌学習において、子どもを知識の運営者として捉え、子ども自らが他者と協調しながら既存の地域像を問い直し、状況に応じて新たな地域像を再構成することのできる資質・能力の育成が求められるとの問題意識のもとで、「構築物-再構成型地誌学習」の構成理論が構築されている点、「地域像相対化段階」、「地域像構築分析段階」、「地域像吟味批判段階」、「地域像再構成段階」という学習過程が開発されている点、それらの学習過程に基づいた①「表象」再構成型、②「表

象要素」再構成型，③「表象価値判断」再構成型の3つの授業類型が開発されている点，さらにそれらの実践が行われ，効果が検証されている点で，これまでに見られない地誌学習の授業構成理論の提案と考えられ，独創性があると評価された。

（２）本研究の発展性

本研究では前述の独創的な研究成果を踏まえて，小学校社会科地誌学習のカリキュラム編成案を提案している。このカリキュラム編成案は，今後の小学校社会科における地誌的な学習のカリキュラム編成に大きな影響を与えるものと考えられ，研究の発展性のみならず，学習指導要領のようなナショナルカリキュラムレベルにも影響を与えるものと考えられる。

（３）学校教育実践への貢献

本研究の学校教育実践への貢献は，前述のとおり，小学校社会科の学習に直接関わる内容であること，また，論文中の6～8章において，3つのタイプの授業を開発・実践してその有効性を検証しており，小学校社会科授業実践の改善に貢献する発展性の高い実践的研究であるとの評価を得た。

３．審査結果

以上により，本審査委員会は，大矢 幸久 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し，全員一致で合格と判定した。